

杭抜き協会設立

学術的に広く情報発信

芝浦工業大学工学部土木工学科の稲積真哉准教授は、産学官でつくる「一般社団法人日本杭抜き協会」を設立した。これまで若干軽視される傾向にあった既存杭の存在と引き抜き工について、技術革新を目指すだけでなく、

芝浦工大の稲積准教授

なく、取り組みの必要性・重要性を学術的な見地から明らかにし、各方面に向けて公表すること。他の学会、協会も含む社会全体へ積極的に啓発する活動も合わせて実施していく。

撤去に関する倫理感を育み、その上で講習・検定制度の構築も含めたブランドデザインを創造する。既存杭、既存杭の引き抜きを学術的に取り扱う法人の設置は、国内初の試みとしている。建築物を建てる技法・工法は

数多く研究された法的な整備もされているが、既存杭を引き抜く方法については、これまでなかったという。しかし近年、高度経済成長期に建てられた建物を取り壊して同じ場所に新たに建てるケースが多くなっており、

解体跡地の利用に際し、この問題が今後ますます顕在化していくことが予想されている。

こうした状況で、稲積准教授らは業界の問題だけでなく、広く社会全体の問題として認識してもらったため、情報を発信したり、勉強会を開いていく。引き抜き工法の基準やガイドラインの策定にも努め、講習・検定制度を確立して国家資格とし、適切な「杭の引き抜き」の実施を可能とすることを目指す。

協会の代表理事は稲積准教授が務め、来年4月から本格的に活動する。